

ぐんまちゃんレター



群馬県の旬のおすすめ情報を
「ぐんまちゃん」がお知らせします

2017年12月号

発行：群馬県広報課 ぐんまイメージアップ推進室
TEL：027-897-2695 FAX:027-243-3600
E-Mail：kouhouka@pref.gunma.lg.jp

レトロなぐんま



東国文化の中心地として栄えた証である古墳や「上野三碑」、「富岡製糸場と絹産業遺産群」など、歴史的価値が高い遺産に恵まれた群馬県。そんな群馬県には、大切に守られてきたからこそ、今になって「レトロさ」に価値を感じるスポットがたくさんあります。懐かしい雰囲気漂い、なんだか落ち着く…そして写真映えするステキなところを群馬で巡ってみませんか？

レトロな建物・施設

○碓氷第三橋梁〈通称「めがね橋」〉・アプトの道（安中市）

明治25年に建造された、旧信越本線・横川駅～軽井沢駅間の橋の1つで、現存するレンガ造りのアーチ橋では国内最大規模を誇り、国の重要文化財に指定されています。

信越本線アプト式鉄道時代の廃線を利用し、遊歩道として整備されたアプトの道には、国の重要文化財である旧丸山変電所をはじめ、6つの橋と10のトンネルがあり、めがね橋を代表する鉄道煉瓦構造物群等の碓氷峠鉄道遺産にふれることができます。



所在地：安中市松井田町横川～坂本
TEL：027-382-7622
(安中市文化財保護課)



NPO法人 碓氷峠歴史文化遺産研究会 理事長
萩原 豊彦 さん

碓氷峠は、碓氷関所跡や碓氷第三橋梁(めがね橋)などの歴史的建造物の宝庫で、トレッキングにも最高です。「碓氷線文化財インストラクター養成講座」の講師として、碓氷峠鉄道遺産の価値や魅力を伝えています。

〔碓氷線の鉄道遺産群の「復原」に関わった。平成27年にNPO法人碓氷峠歴史文化遺産研究会を設立し、理事長をつとめる。〕

○昭和庁舎・群馬会館（前橋市）

昭和庁舎は、昭和3年に建設され、長きにわたり県庁の顔として親しまれてきた、昭和初期の典型的洋風建造物です。当時としては関東近県で最も先進的な建築技術を駆使した建造物でした。改修工事が行われた際、建築本体の原型はそのまま保存され、外部はオリジナル意匠が守られています。

昭和庁舎から道ひとつ隔てたところにある群馬会館は、天皇即位の大典を記念して、昭和5年に建設された県内初の公会堂建築です。こちらも、建設当初の外観が残っています。

昭和庁舎・群馬会館ともに、その重厚感ある雰囲気から、多くの映画やドラマ等の撮影で利用されています。



○前橋市中央児童遊園「るなばあく」（前橋市）

前橋公園の中の一角にある、「日本一懐かしい」をテーマにした児童遊園地。昭和29年の開園以来、半世紀以上もの間、幅広く利用者から愛されています。入場料は無料、乗り物の料金も1回10円や50円という驚きのプライス。

国の登録有形文化財の「もくば館」をはじめ、ノスタルジックな雰囲気漂い、心がほっと安らぐような遊園地です。



所在地：前橋市大手町3-16-3
TEL：027-231-6774
営業：9:30～17:00(11～2月
は16:00まで)
定休日：火曜日



るなばあく園長 原澤 宏治 さん

子ども以外にも幅広い層の方々に楽しんでいただくため、古い物を守るだけでなく、様々な新しいイベントを実施しています。たとえば、大人がビアガーデンのような雰囲気を楽しめる「るなばDEないと」や、子育て世代のお母さんを対象とした「るなぼけ」などです。スタッフ一同、「またあの人に会いに行きたい」と思っていただけに対応を心がけています。

平成27年4月より「るなばあく」園長をつとめる。幅広い層に園の魅力をPRするため様々なイベント等を企画するだけでなく、自身も園内に立ち、積極的にお客様とコミュニケーションをはかっている。

○臨江閣（前橋市）

明治期に建てられた、近代和風の公共建築物です。大河ドラマにもなった偉人、県令・楫取素彦らの寄付によって迎賓館として建てられた数寄屋風建築の本館・茶室と、一府十四県連合共進会という地方博覧会に合わせて貴賓館として建てられた別館からなります。本館と茶室は県の、別館と渡り廊下は市の重要文化財に指定されています。

11月4・5日には本館を会場に、「第30期竜王戦七番勝負第3局 前橋対局」が行われました。

来年2月末まで、幻想的なライトアップを実施しています。演出は、二条城や東京駅等、各地の建築物のライトアップを手掛ける高橋匡太氏によるものです。



所在地：前橋市大手町3-15
TEL：027-280-6511
(前橋市文化財保護課:臨江閣について)
027-898-6427
(前橋市未来の芽創造課:ライトアップについて)
開館：9:00～17:00
休館日：月曜日(祝日の場合はその翌日)

レトロなカフェ

○なんもく村のちょっとしたcafe（南牧村）

元々養蚕農家だった古民家の1階で営まれるカフェ。南牧村や周辺の旬の美味しい野菜や素材をふんだんに使った食事を提供しています。

カフェの开店時間前に、ピラティスの体験を実施したり、不定期で朗読会や演奏会を開催したりと、多くの人が集まる場所になるようにと、食事の提供だけではない面白い取り組みもしています。



所在地：甘楽郡南牧村大日向1517
草木萌動1階

TEL：050-5587-2655

営業：11:00～17:00

(ラストオーダー16:00)

定休日：月曜日、木曜日、金曜日、
第2・第4土曜日



cafe代表 加藤 有希 さん

都市の人材を農村で活用するためのプログラムに参加したのをきっかけに、南牧村を知りました。消えゆきそうな古民家等を目にして、この村のために何か自分ができるかと思い、東京ではできない群馬ならではの温かい田舎暮らしに惹かれて移住を決めました。結婚後富岡市に住み、南牧村に通っています。

平成20年4月、友人と共に東京練馬にカフェを開店。平成27年に群馬県の南牧村に拠点を移し、7月に「なんもく村のちょっとしたcafe」をオープンした。

○古民家かふえ「信州屋」（甘楽町）

信州屋は、明治時代後期に信州から移転してきた宮嶋九十氏の息子、仁三郎氏が建てた建物です。呉服などを扱う商店、質屋として創業され、大正から昭和期に入ると養蚕も行うようになりました。当時のたたずまいを残したまま改修され、日本名水百選「雄川堰」が流れる城下町小幡の桜並木に、まち案内所、イベントスペースを備えるコミュニティ・カフェとして平成25年4月にオープンしました。

1階にある「喫茶オバタ」では、甘楽地域や世界の農村の甘味やドリンクが味わえます。プチ図書館もあり、目の前を流れる雄川堰を眺めながらのんびりすることができます。



所在地：甘楽郡甘楽町大字小幡7

TEL：0274-74-6061

営業：10:00～16:00

定休日：月曜日(祝日の場合はその翌日)、
年末年始

レトロなまちなみ

○四万温泉街（中之条町）

四万温泉は、昭和29年にその優れた環境が認められ、環境省により国民保養温泉地第一号に指定されました。「四万(よんまん)の病に効く伝説の湯」として有名で、鎌倉時代からその名を知られていました。

スマートボールを楽しめる昔ながらの遊技場があるなど、趣ある温泉街も特徴です。子どもの頃のことを思い出しつつ長居してしまうような、懐かしい雰囲気漂う街並みです。



○伝建地区〈桐生市桐生新町伝統的建造物群保存地区〉（桐生市）

天正19年(1591年)に桐生新町が形成されて以来、織物業の中心地として桐生の経済発展を支えてきた地区です。桐生の織物業は大正期から昭和初期に最盛期を迎え、当時の町並みには織物業の店舗などが建ち並びました。現在も商家や織物工場、寄宿舍、銭湯などが残っており、工場の形態や女工の暮らしが偲ばれる場所です。

明治～大正時代の建物がレトロな雰囲気を醸し出すこのエリアで、タイムスリップしたような気分を味わってみてはいかがでしょうか。



レトロな雑貨

○こんこんぞうり（中之条町）

刈り取ったスゲという草を温泉に浸し、足で踏んで柔らかくする作業を「ねどふみ」と呼びます。「ねどふみ」されたスゲで編まれた「こんこんぞうり」は、色とりどりの布が巻かれていて、何ともカラフルで可愛らしく、丈夫で通気性が良いのが特長です。

古くから暮らしの中で使われ、愛されてきた「こんこんぞうり」は、道の駅等で購入できます。



取材先のご紹介や画像提供など、ご相談ください。

群馬県広報課 ぐんまイメージアップ推進室

TEL : 027-897-2695 E-Mail : kouhouka@pref.gunma.lg.jp